

平成27年度 第1回かほく市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成27年7月30日(木)
開会 午後2時58分 閉会 午後4時12分

2. 会 場 かほく市役所 3階 301会議室

3. 出席者 かほく市長 油 野 和一郎
かほく市教育委員会
教育委員長 山 本 滝 男
教育委員長職務代理 松 井 三枝子
教 育 委 員 寺 西 哲 秀
教 育 委 員 長 柄 悦 子
教 育 長 遠 田 敏 博

事務局関係

教 育 部 長 山 越 充
学 校 教 育 課 長 井 上 勝 文
生 涯 学 習 課 長 折 戸 靖 幸
学 校 教 育 課 課 長 補 佐 南 津 由

<会議次第>

1. 開 会
2. あいさつ
3. 総合教育会議の概要について
4. 議 事
 - 1) かほく市総合教育会議運営要綱について
 - 2) かほく市教育大綱について
 - 3) かほく市立小中学校の配置について
5. そ の 他
6. 閉 会

<開 会>

◇あいさつ

【油野市長】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が昨年6月20日に改正され、今年の4月1日から施行されている。

今回の改正の要点は、教育長と教育委員長の一本化、総合教育会議の新設、大綱の策定の大きな3点である。

そうした中で、かほく市はこれまで以上に教育委員会と連携を図り、子どもたちが心も体も健やかに逞しく成長できるように取り組んでいかなければならないと考えている。

何かとたいへん難しい教育行政であるが、互いに連携していきたい。

◇総合教育会議の概要について

【山越教育部長】

「総合教育会議の概要」について説明。教育に関する予算の編成や執行、条例提案など重要な権限を有している地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思の疎通を図ることのほか、地域の教育課題やあるべき姿など、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることが大目的である。また、会議は執行機関同士の調整・協議の場でもある。

(資料1 ページから5 ページの下線の部分を中心に説明。)

【松井教育委員長職務代理】

総合教育会議は原則として公開の会議となっている。今回の第1回会議をどこで広報したのか。また、秘密事項と認める場合には傍聴をさせないということになるが、どのような広報をするのか。そのほか、会議途中で秘密の会議にできるのか。

【山越教育部長】

かほく市総合教育会議運営要綱の定めにも関連してくることである。要綱に定めのないことについては、要綱第6条に市長と教育委員会が協議をして定めることになっている。当然、最初から秘密事項の会議ということであれば、告示の際に、秘密会ということで告示、広報、公表をする。

今日の会議については、かほく市の公告式条例に従い、告示行為をもって公表をしている。

今後、会議の開催については、つまびらかに周知を図るために告示行為に併せてホームページにも掲載したいと考える。

【山本委員長】

5ページの「⑤議会に対する説明」に関して、総合教育会議の協議結果や大綱について、議会に対する説明をすることになっているが、公開をしないような会議結

果についてはどのような議会への説明となるのか。

【山越教育部長】

秘密事項に係る会議の場合については、個人のプライバシーに関わることなど、ケース・バイケースであり、会議を主宰する市長の意見を聴き、その都度、決めていくべきことと考える。

◇議 事

1) かほく市総合教育会議運営要綱について

【井上学校教育課長】

法律で定められているもの以外を、この運営要綱をもって定めるということで、読み上げて提案。

(6ページの議事1 関係資料により説明。)

【松井教育委員長職務代理】

議事録は公表することになると考えるが、どのような公表になるのか。

【山越教育部長】

要綱の第4条第3号に「議題及び議事の要旨」と書いてあり、かほく市としては議事の概要ということで考えている。参考までに、文部科学省の全国調査では、詳細な議事録の作成をすることが63.3パーセント、かほく市のように議事録の概要を作成するところが36.7パーセントとなっており、その割合は2対1となっている。しかし、全文筆記でなくても要点筆記で伝わるものと考えている。

【油野市長】

松井委員長職務代理の思いは、会議内容の要旨が、伝わるようにしてほしいということ。これを踏まえた議事録とすべきである。

【山越教育部長】

出された意見を踏まえて、原案どおり要綱を決定してよろしいか。

(異議なし。)

それでは原案どおり決定し、要綱第3条の規定により、これ以降の議長は教育長。

【遠田教育長】

要綱に従いますと、第4条第3項に、「議事録は市長及び教育委員1名の署名をもって確定するものとする。」とあり、教育委員1名として山本教育委員長を指名。

2) かほく市教育大綱について

【山越教育部長】

7ページの資料は、平成25年度に策定した「かほく市教育振興基本計画」の体系図である。まず、文部科学省の全国調査での教育大綱の策定状況は、策定済の「教育振興基本計画」をもって教育大綱に充てた市町村が52.2パーセント、新たに

教育大綱を策定した市町村が47.8パーセントである。新たに教育大綱を策定した市町村の中には教育振興基本計画がなく教育大綱を策定した市町も含まれているものと考えられる。

事務局の案としては、平成25年度に策定した「かほく市教育振興基本計画」をもって教育大綱に充てるのがよいのではないかとすることを提案。

【山本教育委員長】

かほく市教育振興基本計画の今後の見直しについて教えてほしい。

【山越教育部長】

かほく市教育振興基本計画の中にもうたわれているが、5年ごとに見直していくことになっている。ただし、かほく市には総合計画や現在策定中の創生総合戦略推進計画などの上位計画があり、それらの計画と方向性が違うということになれば、5年間待つのではなく臨機応変に対応していくべきものだと考えている。

【山本教育委員長】

教育大綱の見直しについても、同様な考えでよいか。

【山越教育部長】

教育振興基本計画をもって、教育大綱に充てるということになれば同様な考えでよいと考える。

【寺西委員】

教育大綱に、かほく市は何がしたいのか。また、少しでもかほく市らしさを盛り込めないものか。

【山越教育部長】

かほく市の教育というのは、この教育振興基本計画の体系図だけを見れば、あまり特色がないようにも見えるが、具体的な取組の中では、他市町に比べてもかなり特徴的なものがあると考えている。

【油野市長】

かほく市の特徴というものをいい形で教育の中に出せればと思う。しかし、教育というのは本当に幅の広いもので、かつ、すぐに結果の出るものではない。かといって、理想像がないといけないとも思っている。

現在、創生総合戦略推進計画を策定中であるが、その中で一つでも二つでも教育行政の分野でいい案が出てくれば面白いと思っている。ただし、肝心なことは、やれることを一つずつ積み上げていくことである。

【山本教育委員長】

私も公立学校に関わった者として、特色ある学校づくりと言いながらも、なかなか公立の学校では難しいというのが実感である。国が「生きる力を育むために」という目標を打ち出し、県や市、学校がそれを受けて決められた枠組みの中でしかできない。大きく枠をはみ出して特色を出すというのは大変なことであると思う。

【遠田教育長】

確かに、義務教育の範疇であると、国の施策から関連しているので、山本教育委員長の言うとおりに、やや拘束される部分もあるかと思う。

【松井教育委員長職務代理】

かほく市教育振興基本計画について、市長はどのように思っているのか。

【油野市長】

かほく市教育振興基本計画は、かほく市の教育施策を細かなところまで盛り込んだものであり、その実施については教育長や教育部、各課長を信頼し、また、いろいろな提案があった場合にはしっかりと対応を取るために連携を図りたい。

【松井教育委員長職務代理】

教育大綱というものは、資料7ページ教育振興基本計画の一部分だけになるのか、それとも教育振興基本計画そのものになるのか。

【山越教育部長】

一般論で言う大綱というものは、方向性を定めたものだけであるが、今回の教育大綱は、具体的な取組まで含めた教育振興基本計画そのものだと考えている。

【遠田教育長】

かほく市教育振興基本計画をもって、かほく市教育大綱に充てることに決定してよいか。

(異議なし。)

それでは、かほく市教育振興基本計画をもって、かほく市教育大綱に充てることに決定。

3) かほく市立小中学校の配置について

【山越教育部長】

平成27年1月に文部科学省は「公立小中学校の適正規模・適正配置」に関する手引きを約60年ぶりに出した。その事務次官通知の中に総合教育会議等において、首長部局とも緊密な連携を取り対応する旨が記載されている。

かほく市における当面の課題というのは施設整備であり、市内の学校施設において法定耐用年数の47年を超えている学校は宇ノ気小学校と七塚小学校、外日角小学校の3校ある。施設整備の施策を進めていくうえで、小中学校のあり方が大切な部分である。

(資料8ページから14ページの議事3関係資料(かほく市の現状や人口推計、児童生徒数の推計、学級数の推計、通学距離圏図、学校施設の工事履歴など)で説明。)

【山本教育委員長】

小中学校の適正配置に関する資料を見る限り、人口は減少するが学級数はこの先10年間は急激な減少はなく、少なくとも複式学級になることがないことがわかる。

現在、国でコミュニティスクールを推進しているが、かほく市でもコミュニティスクールを計画しており、その基盤となるのが地域であり、その地域を統廃合することによって、基盤が崩れていくことは決してよいことではないと考える。

現行の中学校3校、小学校6校を維持していくことが賢明であるとも考える。

ただし、施設の改築・改修となれば統合ということも浮上してくることも懸念されるが、現状を維持していくことがよいのではないかと考える。

【油野市長】

地域のコミュニティを大切にすることというのは当然の話である。学校が複式学級しか組めないといった状況になればやむを得ないと思うが、児童生徒数や学級数の状況、これまでのいろいろな地域の特徴を考えた時に、できるだけ現状の学校を維持したいと思っている。

【松井教育委員長職務代理】

学校というのは、地域のコミュニティとして大切なものであると思う。児童生徒の減少傾向を見た場合、10年間は維持できると思う。

【油野市長】

かほく市は、危機感を持って人口増の施策をこれまでも進めてきた。教育環境をレベルアップすることがかほく市の大きな魅力アップにつながり、若い世代の人の定住を推進し、子どもたちの増加にもつながると考えている。

【遠田教育長】

かほく市立小中学校の配置の方向性として、現状を維持していくことでよいか。
(異議なし。)

<閉 会>

署 名 市 長 油 野 和 一 郎

署 名 教 育 委 員 長 山 本 滝 男